刻む会
たより
No. 17
1998. 06. 22

長生炭鉱の"水非常"を
歴史に刻む会
（代表　山口　武信）
宇部市常盤一ー一ー九
☎〇八二六（二一）八〇〇三

韓国人遺族ら海へ祈り

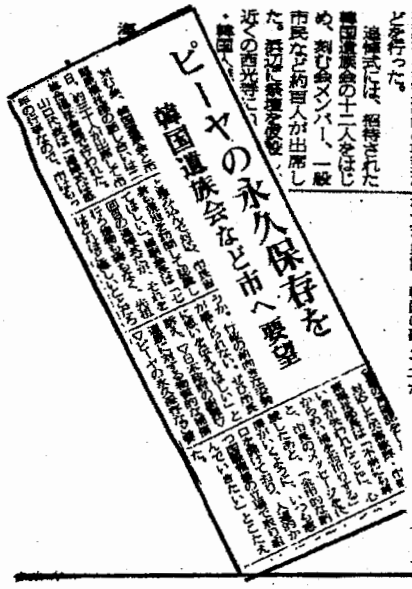
長生炭鉱水没56周年追悼式

一九九八・二・二　ウベニチ

水非常を刻む会

旧長生炭鉱水没事故五十六周年（三日）にちなんで、「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」（山口武信代表）による追悼式が一日、事故のあった福岡県炭鉱をのぞむ西岐波の西海岸で営まれた。遺族たちが韓国式の法要チェーサや炭鉱のピーヤ（排気口）にむかって献花、異国で無念の死をとげた肉親のめい福をいのり、涙を流した。きょう二日は、遺族らが市福祉福祉部にこれまで同様、現地に追悼碑の建立設置の要望などを行った。

追悼式には、招待された韓国遺族会の十二人をはじめ、刻む会メンバー、一般市民など約百人が出席した。折りに家族を亡くした近くの西光寺こ・韓国人



ピーヤの永久保存を

韓国遺族会など市へ要望

い）を初めて現地に持参して供えた。

山口代表は「水没事故から五十六年。閉鎖された炭鉱で、さらに闇の中で生活されていた人たちばかり。日本人をふくめて亡くなった人は百八十三人ですが、百三十六人までは確認している。家族を大切に目本人として扱る部分はちゃんと扱り、日韓お互いの友好を深めるために、胸をはってこの活動をつづけたい」とあいさつした。

遺族会の楊玄（ヤン・シュン）副会長が「物心両面で支援してくれた刻む会に感謝する。今回は三人が初めて参加した。ここは悲痛な場所で、遺族は線像を絶する思いで長い歳月をすごしてきた」と苦しみを訴えたあと、「おじさん、どこにいるんですか」と弔辞をのべた。

一九九六年（平成八年）に刻む会が作成した追悼の碑文を朗読。韓国の歌「アリラン」などを合唱した。

韓国式の法要チェーサは、白い喪服サンポクに身をつつんで地面に頭をつけ、悲しみの「アイゴー」を繰り返して三拝。亡き父や祖父をしのんだ。

最後にピーヤにむかって遺族と参列者代表が花束を投げ入れ、悲しみを新たにしていた。

事故当時、父親が長生炭鉱に勤務し、職員住宅に住んでいた尹谷昭さん（80）さん＝工学部通り＝は「情報がさえぎられていたので、何が起きたか分からなかったが、坑口にたくさんの人が集まり大騒ぎとなり、たいへんな事故が発生したことだけは伝わってきた。いまでもよく覚えている。補償など細い問題はあろうが、犠牲者を十分にとむらってあげたい」と語った。

追悼式終了後は付近の集会所で遺族と市民の交流会が開かれ、意見を交換した。

韓国遺族会への参加出席不成功始末記

島敬史

2月に追悼式のために韓国から遺族をお招きした際に、今年の遺族会総会に是非参加して下さいと楊玄副会長さんから強いお誘いを頂き、何とか日程のやりくりをして釜山へ伺いたいと願っていた。大阪の李元宰さんからも毎年一緒に行きましょうと声を掛けて頂いたこともあり、重い腰を上げて出掛けることにした。中国、フィリピン、インドネシア等々何度も出掛けながら一番近いお隣りの韓国を尋ねるのは初めてのことでいささか気恥かしさを覚えると共に期待もふくらむ思い出あった。

韓国遺族会の総会は、今年は4月12日（日）夕方から開催されるとの連絡を受けて、当日福岡発14時15分の大韓航空 KE784便で釜山に向かうこととなった。今回は山口武信会長、井上洋子さん、裵基秀さんと私の4人が宇部から、李元宰さんが大阪から直接現地へ行くこととなった。

山口からの4人は当日13時過ぎに福岡空港で落合い、早速大韓航空のカウンターでチェックインした。2泊3日の短い旅なので各自荷物も少なく軽装、でも心は2時間後に胸をふくらませ、同時にその後もたれる遺族会総会のことを思い緊張もしていた。出国審査（イミグレーション）を通って飛行機搭乗待合室へ入ったら、そこはもう日本語が殆ど聞こえず韓国語が飛び交っている外国であった。

待つことしばらく、搭乗予定時間が来ても何の連絡もなく、出発予定の時間が過ぎてやっと、釜山の天候悪く着陸が危ぶまれるので天候の回復を待つとのアナウンスがなされた。それからは只いたづらに時間が経過するのみでなすすべもなし。本来なら当然もう釜山に到着していなければいけない時間が過ぎて私たちは少しあわて始めた。空港に出迎えて下さっている方々、また総会の開催を待っていて下さっているであろう遺族会の皆様に連絡のとり様がない

のである。この時程、韓国語が全く出来ず、お互いに直接意思の疎通が出来ないことにもどかしてを感じ、同時に日頃から韓国語を学ぶ努力を怠ってきたことに恥ずかしさを覚えた。4人の中で唯一人韓国語に不自由のない裵さんに頼るしか方法がないのだが、何時ものとおり遺族会との間の窓口になって下さった裵さんも総会が何処で行なわれるか解らないということで、何の連絡もとり様がないまま時間が経過した。2時間近く経ってから航空会社の人から結局、飛行機は天候回復の望みがないので釜山には下りずにソウルに直行するとの説明があり、釜山行の方もソウル行きを希望されるならそのまま搭乗して下さいとのこと。私達はソウル経由釜山行きを一応考えてみたが、陸路5時間近くかかるとのこと。結局、総会に間に合うことはないので韓国行きをあきらめて夕方遅く宇部に戻ってきた。

現地には夜になってから裵さんに何とかして電話で連絡をして頂くことをお願いした。

その後、韓国遺族会と電話で連絡をして下さった裵さんから、李元宰さんが釜山からの帰り宇部に立寄り総会の模様を話して下さるとの連絡があり、4月16日夜、山口先生、裵さんと私の3人で李さんにお目にかかり、長時間にわたって話を伺った。

韓国をおそった昨年暮からの経済不況が一般庶民の生活に及ぼす影響はかなり深刻で、韓国の遺族会の方々にとっても大変であるとのこと。ということで、今回の総会を期に会費の納入を遺族会の会員に求めたところ、遺族会の結束にいささかゆるみが生じたとのことであった。水非常から50年余も年月が流れた今、長生海岸の海の底に今なを眠っている父、叔父など親族の無念を思えば、勿論、遺族会の意味は改めて言う迄もないが、現実の日々の生活の方がより切実だと言うことであろう。一方には何年たっても目標のひとつ"犠牲者の名を記した碑の建立を達成し得ない私達の力不足が、韓国の遺族達に無力感を与えていることも否めないということで、今年の総会はあまり遺族があつまらず、結果としては私達が行くことが出来なかったことは、かえって良かったとの李さんのお話。李さんは御自分も遺族の一人として、日本では決して力は強くないけれど粘り強く運動を続けようとしているのだから、当事者の韓国遺族会が腰砕けでは困ると強く皆を説得して来られた由、現会長の金永鉉氏はこの度一応退陣されることとなり、秋に再度総会を開き新しい役員を決めて活動を始めるとのことであった。なお、李さんは新井英一コンサートの実現を私共から聞き、非常に喜ばれ、これが運動の新しい展開につながればと熱っぽく語られた。

今年来日された遺族の方々

秋吉台にて。

遺族11名
(通訳1名)

1998年・今年の追悼式の様子

1月31日（土）

数日前に、関釜フェリーが欠航という知らせを県国際交流課から受け、至急遺族会へ連絡のうえ、ビートルⅡで来日して頂くよう手配。「刻む会」のメンバー数人で、博多港まで出迎え、高速道路で宇部へ。

来日された遺族は11名ほとんどの方が、犠牲者の子供に当たる方だった。

2月1日（日）

＊追悼式開催。

参列者は100名程度

今年は、県の国際交流課及び市の健康福祉部の方も参列されていた。

〈今年のトピックス〉

頼尊氏が、自分の土地の周辺にバリケードを張り、中を通れないようにしていた。

バリケードを取り除くように話をしたが、拒否された。

＊市民交流集会

参加者80人程度

当時を知る日本人の方が語って下さったりと実りの多い会だった。

2月2日（月）

＊宇部市表敬訪問

今年の特色としては、担当の部長がかわり、新しい部長はとってもやる気をみせてくれた。今までの部長の中では一番対応が良かった。遺族への土産として利九饅頭を各自にくれた。

＊県表敬訪問

県の接待での昼食が定着したようである。

2月3日（火）

関釜フェリーで帰国するために、予定より一日長い滞在となったので、この日は、ゆっくりと山口観光（秋芳洞）に行き、帰路につかれた。

式典の途中で泣き崩れる韓国の女性3人（西岐波長生炭鉱で）

1998年2月3日 宇部時報

悲痛「アイゴアボジ」遺族12人がめい福祈る

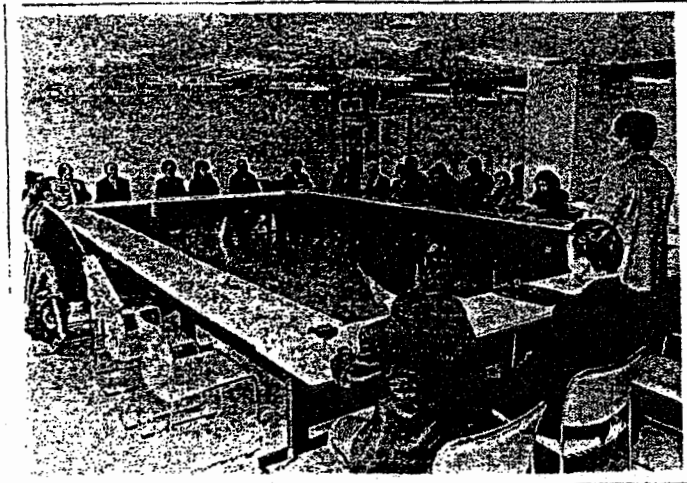
旧長生炭鉱で追悼式

戦時中に多くの朝鮮人が事故死した宇部市西岐波長生の長生炭鉱の近くで一日、追悼式が行われた。韓国の遺族十二人が白い韓服姿で参加し、犠牲者の霊を慰めた。女性たちは「アイゴアボジ（ああお父さん）」と叫びながら、泣き崩れた。

同炭鉱の水非常を歴史に刻む会（山口武信会長、百人）主催。

海底にあった司は、昭和十六…

1998.2.3. 宇部時報



市職員と話し合う日本側関係者や韓国人遺族（福祉会館で）

旧長生炭鉱

改めて石碑建立など要望

水非常刻む会 市や県へ協力求める

多くの朝鮮人が戦時中に事故死した宇部市西岐波長生の長生炭鉱について、司炭鉱の水非常を歴史に刻む会（山口武信会長、百人）は二日、福祉会館で市職員と会合を開いた。韓国遺族会（金永鉉会長、六十八人）は、石碑の建立など七項目について市に協力を求め、続いて訪れた県庁でも県に同じ要請をした。

会合には日本側関係者や韓国人遺族、矢富敏雄・市健康福祉部長ら三十人が出席した。山口会長は「宇部は石炭で栄えたが、そこに朝鮮人の働きがあったとは認識されていない。私たち

海底のアボジにとどけ！

新井英一チャリティーコンサートｉｎ宇部

４月１日宇部「緑橋教会」で第１回の会合がもたれました。呼びかけは「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」でしたが、新井英一にぞっこん惚れこんでいるファンの方も待っていたとばかりにかけつけてくださり、「実行委員会」を結成することとなりました。

日本に強制連行され、炭鉱水没の悲劇にまきこまれて亡くなられた１３０数名におよぶ韓国・朝鮮人の魂が、５０数年たった今もなお西岐波の海底に捨ておかれたままで、その方々の望郷の思いをうたってくれるのは、〃新井英一〃この人をおいていません。

新井英一氏はわたくしたちの願いを聞き入れて「チャリティー」として引き受けてくれました。

何としても成功させましょう！

ホールをみんなでいっぱいにしましょう！

◆日時　12月14日（月）　18時30分開場　19時開演

◆場所　「宇部文化会館文化ホール」（目標500人）

◆入場料　大人　　3500円（当日3800円）　高校生以下 1500円（当日1700円）

◆チャリティーの趣旨

収益は長生炭鉱の〃水非常〃で犠牲になられた方々の慰霊碑建立のための資金とする。（刻む会に委託）

新井英一プロフィール

1950年３月、福岡生まれ。15歳で家を出て岩国の米軍キャンプなどで働き、ブルースに魅せられる。21歳で渡米し放浪生活の中で歌手を志し独学で歌作りを始める。

帰国後内田裕也氏に見いだされ、アルバム「馬耳東風」(1979)でデビューするが業界からの評価は高かったが一般的な人気は得られなかった。

1986年亡くなった父親の故郷である韓国・清河を初めて訪れ、数年後その旅の思い出と共に自らのルーツと半生をストレートに歌い上げた「清河への道」を作り、1995年に一枚のアルバムとして発表。ＴＢＳ「筑紫哲也のニュース23」のエンディングテーマ曲に選ばれ、そのアルバムは第37回日本レコード大賞「アルバム大賞」を受賞。日本で生まれ育ち朝鮮半島の血を引く自らを「コリアン・ジャパニーズ」と呼ぶ。1996年韓国ＫＢＳでもドキュメント特別番組が放映され、ニューヨーク公演も行う。

カンパのお願い

「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」が長年にわたり目標としてきた一つである追悼碑の建立について、昨年、ピーヤの見える土地の入手の可能性が少し見えてきました。しかしながら、土地購入費用等、問題が山積みでなかなか一気には前進できずにいます。費用の目途が立たない状況ではせっかくのお話が前へ進みません。毎回、カンパの要請ばかりで恐縮ですが、なにとぞご協力の程よろしくお願い致します。

また、この費用の足しにするために、上記の『新井英一チャリティーコンサート』を開催します。コンサートの方も是非よろしくお願い致します。

今年も昨年に引き続き、親子で参加出来る夏のイベントとして、フィールドワークを計画しています。皆様方お誘い合わせの上ご参加下さいますようお願い致します。

●日　時　８月２５日（火）　　雨天決行

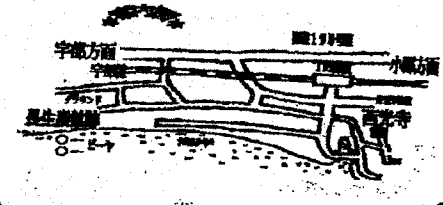
９：30～10：50　西光寺

本堂にて犠牲者位牌と御対面

紙芝居（「アボジは海の底」）

ＯＨＰを使っての炭鉱の話

11：10～12：00　長生海岸

●参加費　無料ですが、

カンパをお願いします。